

ひと物語

寝屋川市に住んで9年。 エネルギーシユな高座で 人気の落語家

しょうふくてい ゆうへい
笑福亭 由瓶さん(点野)



笑福亭鶴瓶師匠の11番弟子として入門がかない、アルカスホールで始めた落語会も60回を超えました。寝屋川市民となつてこの4月で丸9年。「これも、皆さんの応援のおかげです」と感謝を忘れません。

もともと食品会社の営業マンで、しゃべりには自信があつた。すぐにレギュラー番組をもらい、順調に滑り出したかにみえ

ました。しかし、結果は「全然しゃべられませんでした」。プロの笑いとしゃべりは全く違ったといい、芸人で残るために出した結論が「落語家にでもなるか」。本人も想定外の噺家(はなしか)人生のスタートでした。初舞台は27歳のとき。遅いデビューにも「サラリーマン時代の経験が大きかった」とハンデに思わなかつたそうです。出稽古で演目の数を増やし、古典から創作落語までこなして芸の幅を広げていきました。

「二笑一翔」をモットーに 鶴瓶師匠を目指して

妻の実家がある寝屋川市に引越したのは38歳のとき、結婚がきっかけでしたが、「娘も小学校に上がり、地元として愛着を感じるようになりました」。これを実感できるのが、アルカスホールで8年前に始まり、今も続く独演会です。

手が届きそうな距離感の客席に向かつて、ぐいぐい迫るパワフルな噺ぶりは、「一度見たら忘れられないくらい強烈」とファンの間でも評判です。自身も「同じ市民として親近感をもつてくれ、皆さんの愛情を感じます」と、人懐っこい笑顔を

みせます。

昨年11月には市内で新たな独演会を立ち上げ、1月5日にアルカスホールで行われる「さくら亭」は62回目の落語会です。

モットーは、一つ笑って一つ羽ばたこうという思いを込めた「二笑一翔」。庶民的で誰からも愛される鶴瓶師匠を目指し、夢は「アルカスのメインホールと、ホームグラウンドの天満天神繁昌亭(大阪市)で毎月独演会を開き、満員にすること」だといいます。

その言葉から芸歴20年を超え、更なる高みに向かう情熱が伝わってきました。



▲由瓶さんのネタ帳

あふたーわーど Afterword

今年(今年)は亥年ですね。中核市一年目の本年は、亥のごとく真っ直ぐに進みたいものです。忘年会に新年会、何かとお酒を呑む機会が多い年末年始ですが、浴びるように呑む習慣を今年こそは改めたいと思います。五十路が目の前に迫りつつある小生。そろそろカラダのことも考えないと。(^^)



市公式アプリ
もっと寝屋川



市ホームページ



市フェイスブック



市YouTube
公式チャンネル

